

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月24日  
枚方市立菅原東小学校

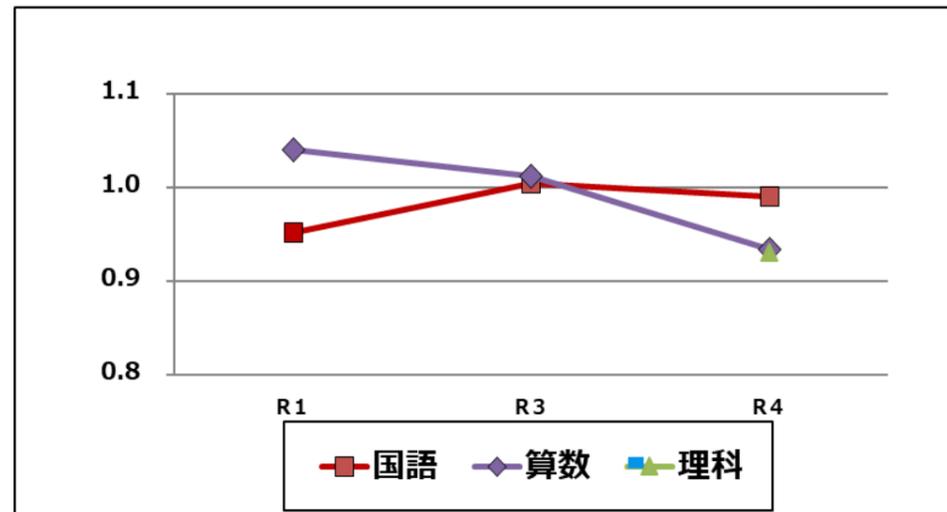
文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願い申し上げます。

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

#### (全国の平均正答率を1とした経年比較)



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

#### <学力調査結果の概要>

##### ○国語について

→話し合いの様子を題材にした設問では、話し手や聞き手の意図や伝えたい内容を捉えることは、全国平均に比べはるかによくなっていました。また、物語文においても「自分の考え想像する」設問において非常に高い正答率でした。「思考・判断・表現」を問う設問についてはおおむねよくなっていました。しかし、漢字に関する設問には課題が残りました。

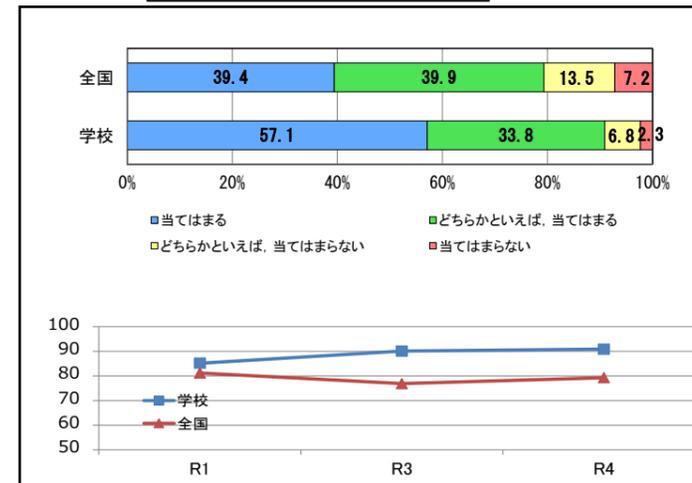
##### ○算数について

→プログラミングに関連する設問においては、学習の成果が見られましたが、全体的に基礎的な知識の定着に課題があります。特に、「変化と関係」においては大きな課題が残りました。

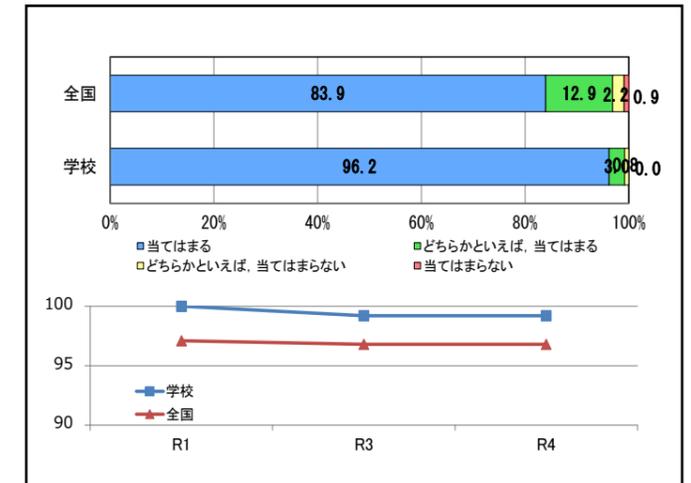
##### ○理科について

→「天気と気温の変化」に関する設問においては、資料を読み取り分析することができていましたが、「昆虫の観察」については、分析や解釈することに課題が残ります。分野によってできたものとのできなかったものに差があります。また、全体的に「思考・判断・表現」を問う設問は苦手なようです。

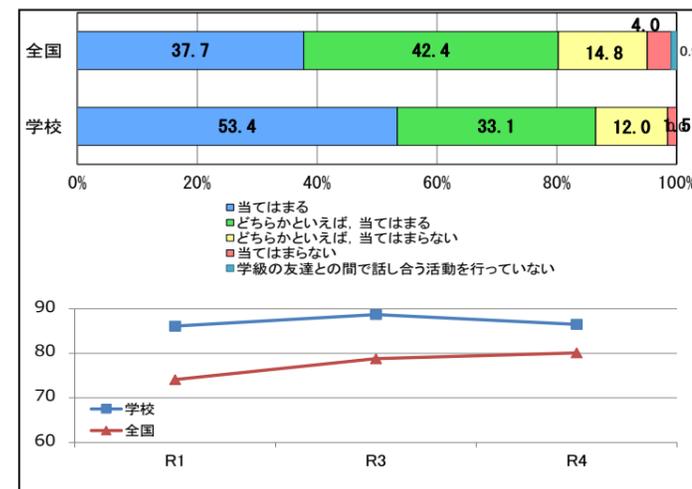
#### 自分にはよいところがある。



#### いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。

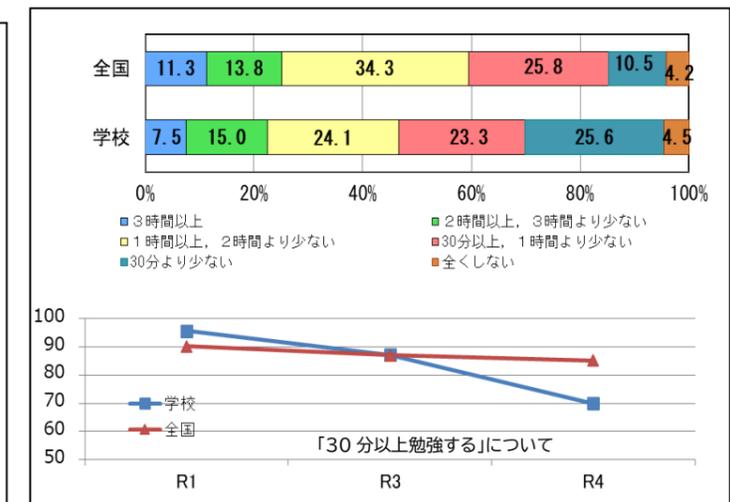


#### 自分とは違う意見について考えるのはたのしいと思いませんか。



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

#### 授業以外に普段(月～金)に1日当たりどれくらい勉強しますか。



#### <質問紙調査結果の概要>

○「自分にはよいところがある」について肯定的な回答が90.9%であり、自己肯定感が高い児童が多いです。また、「先生はよいところを認めてくれる」や「学校に行くのが楽しい」の質問についても肯定的な回答が全国平均よりはるかに高くなっています。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」について、肯定的な回答が高く、規範意識も育っています。

○「自分とは違う意見について考えるのは楽しい」については、肯定的な回答が86.6%で、本校の児童は協働学習について肯定的に受け止めていると考えられます。

○昨年度の調査に比べ、「授業以外の勉強時間(平日)」が少なくなっています。「平日の授業以外での勉強時間」が30分以上の児童は、令和元年で95.7%、令和3年で87.2%、令和4年で69.9%と年々低くなっています。学校では、子どもたちの学習習慣をつけるための取り組みや、主体的に学習する態度を育成するよう努めてまいります。

#### まとめ

学力に関して、国語については、漢字の学習、算数については、基礎基本の徹底が喫緊の課題です。理科について、問題解決をする力を身に付け、思考力・判断力・表現力の育成が必要です。質問紙調査の結果から、自己肯定感が高く、そのほかの質問も肯定的な回答が多いことから子どもたちの情意面はすこやかに成長していることが読み取れました。

【詳細について】

教科に関する調査

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

<国語>

成果や課題があった設問

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることと捉えることができる。

【成果】

	正答率	無解答率
本校	77.9	0
全国	68.8	1.0

(考察)  
昨年までの本校の研究テーマ「自分の考えや思いを伝え合う喜びを感じる子どもの育成」にそって、授業の中で話し合い活動を積み重ねてきました。その結果、他者の意見を聞き、自己の考えを深める「対話的な学び」や「協働的な学び」により、「思考・判断・表現」における力がついてきたと考えられます。無回答率も0です。今後も継続して、様々な教科で「対話的な学び」や「協働的な学び」行っていきます。

設問二・イヤエのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選べ。

1 友達の意見に質問し、みんなの意見を一つにまとめるため。  
2 友達の意見に質問し、認め合いながら話を進めるため。  
3 友達の意見のよさを伝え、みんなの意見を一つにまとめるため。  
4 友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話を進めるため。

【話し合いの様子の一部】

イ 確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちに  
もできるし、はなやかになり、よいと思います。・・・  
エ なるほど、いいアイデアですね。ペンキをぬり直して明るく  
すると、公園がきれいになるといいことですね

【課題】

漢字を文中で正しく使う。

島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう

【文章1】

【文章2】

設問三・島谷さんは、【文章2】を読み、習っている漢字がひらがなになっていた部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

次の部ウを漢字でいいねいに書きましょう。

運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです

答え…親しむ

	正答率	無解答率
本校	54.2	20.6
全国	67.1	14.7

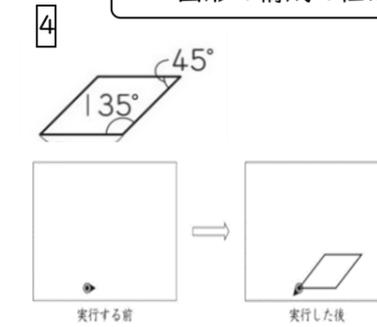
(考察)  
漢字については、課題です。設問三の「ウ」について「親しむ」と書くことができなかった子どもが半数近くでした。設問三の「ア」、「イ」では、「録画」や「反省」という漢字をいいねいに書くことが求められていましたが、いずれも全国平均よりも正答率が低いです。タブレット端末の導入に伴い、漢字を書く機会が減ってきていることも一つの要因と考えられます。授業において、漢字を含めて「書く」活動に力を入れていきます。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

図形の構成の仕方を考察すること(プログラム)



(3) 次に、はなこさんは、正方形のプログラムの一部を変えて、左のようなひし形をかくためのプログラムをつくりました。ひし形をかくことができるプログラムはどれですか。

答え

- イ
- 5 cm の直線を引く。
  - ↓
  - 左に 45° 回転する。
  - ↓
  - 5 cm の直線を引く。
  - ↓
  - 左に 135° 回転する。
  - ↓
  - 5 cm の直線を引く。
  - ↓
  - 左に 45° 回転する。
  - ↓
  - 5 cm の直線を引く。

	正答率	無解答率
本校	67.2	6.9
全国	66.5	4.6

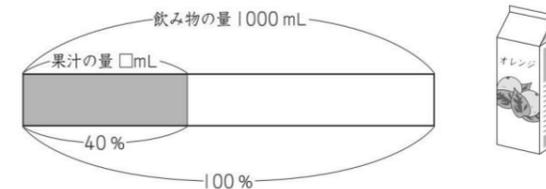
(考察)  
「正方形」の意味や性質、構成をヒントに、プログラミング的思考を働かせて、ひし形に変形する方法を論理的に考えることが求められています。5.6年生では、少人数指導を行い、見通しをもって、問題解決学習に取り組んでいます。その中で、自分の考えをもとに、ペアやグループで交流活動を行い、考えを深め、説明する取り組みを積み重ねてきたことが、正答率において全国を上回った結果につながったと考えられます。

【課題】

数量関係について考察する

2

(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000mLには、果汁が何mL入っていますか？



答え 400

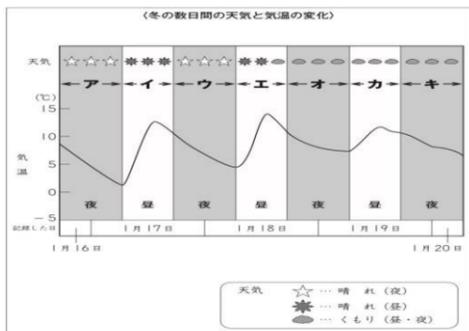
	正答率	無解答率
本校	53.4	6.1
全国	64.6	3.3

(考察)  
百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができるかどうかを問う設問です。百分率で表された割合を分数で表す設問の正答率は高かったが、飲み物の量と比較するという概念が加わると半数近くの子どもが正答することができませんでした。また、これに関連する設問で、「飲み物の量を2分の1にしても、果汁の割合は変わらない。」という答えを導き出す設問においても正答率が低かったです。数量関係において、基礎的な知識や技能のしっかりと定着させる必要があります。

<理科>成果や課題があった設問

【成果】(地球)観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈する。

よしこさんたちは、冬の数日間の天気と気温を観測したり、インターネットで調べたりして、下のように整理をしました。



よしこさんは、【問題】「冬の夜の気温は、どのように変化するか。」について、(冬気と気温の変化)からいえることを、次のようにまとめました

【結果からいえること】  
 ①冬の晴れた夜は、気温が下がる。  
 ②冬のくもった夜は、気温が下がる。  
 ③冬の晴れた夜の気温は、7℃くらい下がり、冬のくもった夜の気温は、3℃くらい下がる。  
 これらのことから、冬の夜の気温は、下がり続け、冬の晴れた夜は、冬のくもった夜よりも気温の変化が大きいといえる

設問  
 【結果からいえること】①は、(冬の数日間の天気と気温の変化)のどの部分をもとに、まとめていますか。左の ア から キ までの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

答え:アとウ

	正答率	無解答率
本校	50.0	8.3
全国	45.5	6.5

(考察)  
 理科においては予測や仮説をたてた上で、観察や実験を行い、考察するという流れの授業となっています。その中で、観察や実験の考察を班やグループで話し合いながら行っています。この設問では、資料を分析して、解釈するために、特徴を読み取り、自分の考えを言葉で表現する力が求められています。授業の中での、「話し合い」活動が結果につながったと考えられます。

【課題】(生命)自然の事物・現象に気づき、分析・解釈する

ひろしさんは、こん虫を下の表のように分けました。

カブトムシの資料

主な食べ物	さなぎになる		さなぎにならない	
	1	2	3	4
植物	モンシロチョウ 食草:キャベツの葉など 食草:花の蜜など	ショウリョウバッタ 食草:ススキの葉など 食草:ススキの葉など	ゲンゴロウ 食草:イトナミズなど 食草:イトナミズなど	シオカラトンボ 食草:イトナミズなど 食草:イトナミズなど
	動物			

(カブトムシについて考えた後の設問)ひろしさんは、さらに調べたこん虫を加えているときに次のことに気づきました。  
 【気づいたこと】  
 ・幼虫のときも、成虫のときも、植物を食べるこん虫がいた。  
 ・幼虫のときも、成虫のときも、動物を食べるこん虫がいた。  
 ・表のこん虫以外で、成虫のときに植物も動物も食べるこん虫がいる。

ひろしさんは、【気づいたこと】をもとに【問題】を見つけ、解決していくことにしました。どのような問題を見つけましたか。次の1~4までの中で最も適切なものを1つ選びましょう。( 答え 3 )

- 1.表のこん虫以外で、さなぎになるこん虫はいるのだろうか。
- 2.モンシロチョウの幼虫は、キャベツの葉を食べるのだろうか。
- 3.表のこん虫以外で、幼虫のときに植物も動物も食べるこん虫はいるのだろうか。
- 4.なぜ、ゲンゴロウの幼虫や成虫は、動物をたべるのだろうか。

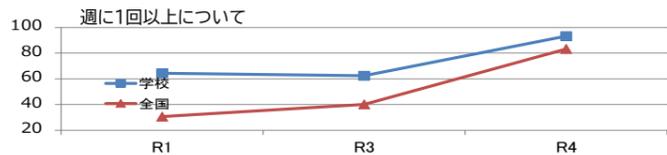
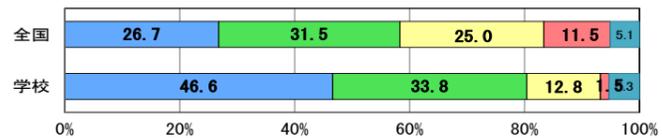
	正答率	無解答率
本校	50.8	1.5
全国	65.5	1.4

(考察)  
 自然の事物や現象についての気づきに課題があります。この設問では、【気づいたこと】をもとに、表の4つのグループに当てはまらないこん虫がいることに気づくことが求められています。  
 理科において、資料や実験、観察をもとに分析や解釈を行い自分の考えを形成することを大切にしなければなりません。そのため、問題解決型の学習をさらに充実させていく必要があります。

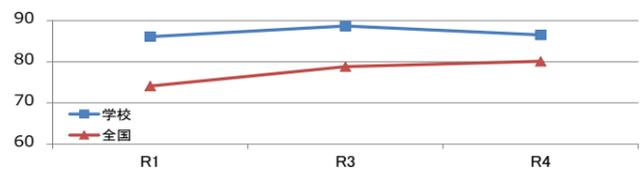
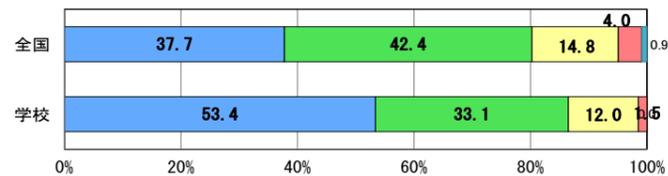
質問紙に関する調査

【成果のあった項目】

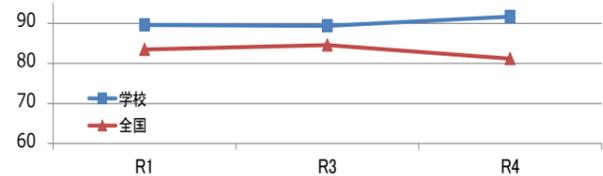
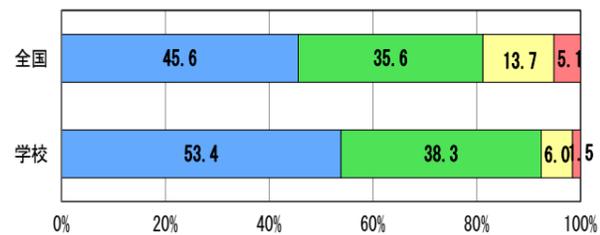
5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

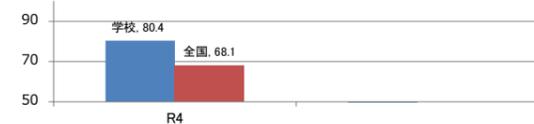
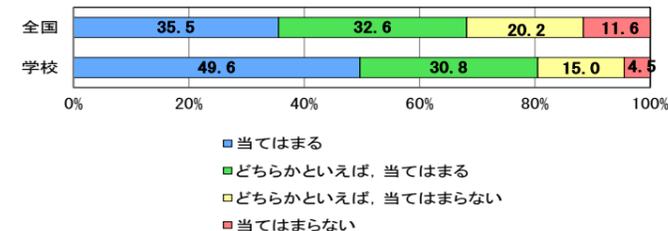


算数の授業の内容はよくわかる。

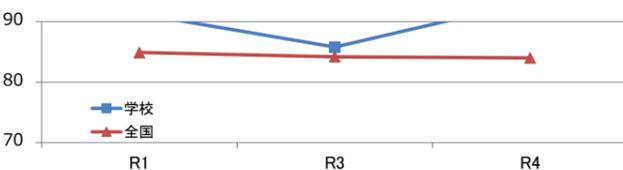
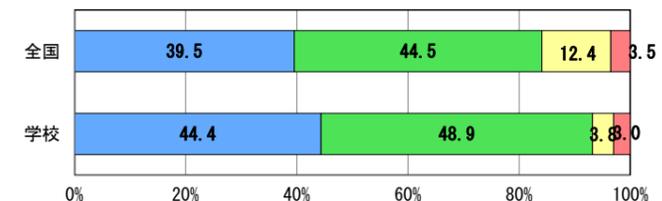


困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

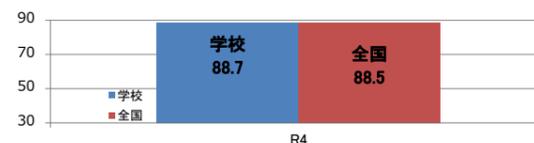
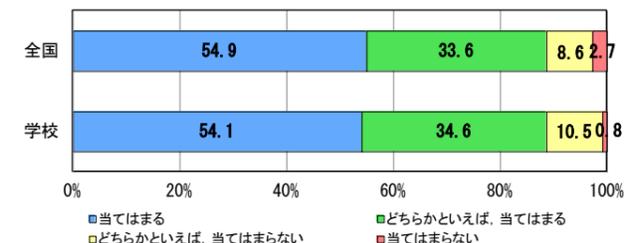
★ 全国  
 ■ 本校



国語の授業の内容はよくわかる。



理科の授業の内容はよくわかる。



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

**成果(考察)**

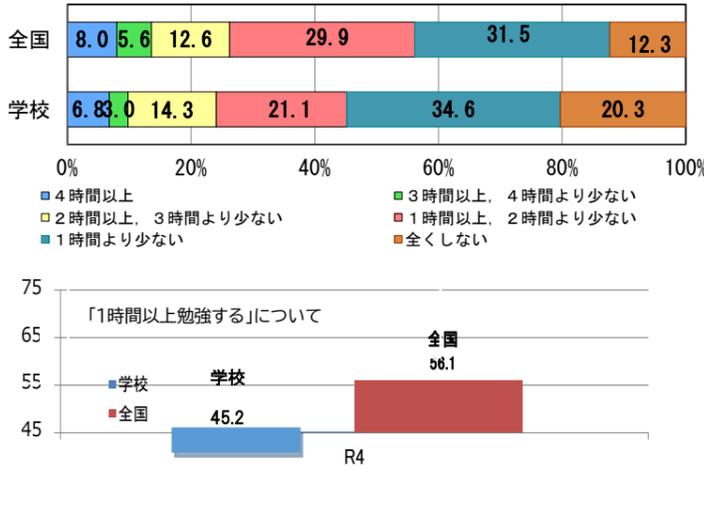
○多くの項目で、本校の児童は肯定的に回答した割合が全国平均を上回っていました。  
 ○コンピュータなどの ICT 機器の活用について、肯定的回答が非常に高く、タブレットを使った学習活動が定着しています。今後は、子どもたちの情報活用能力の育成に取り組んでいます。  
 ○教育相談に関する質問は、今年度から設定されております。本校は全国に比べ肯定的回答が高くなっています。今後も子どもたちが安心して学べるように、児童ひとりひとりについて理解を深め、指導にあたっています。  
 ○学力調査で課題のあった算数について、「算数の授業の内容はわかりますか。」という質問には、肯定的回答が91.7%であり、全国を上回っています。また、「算数の授業で学習したことは将来社会にでたときに役に立つと思いますか。」については、肯定的回答が高く、学習についての理解や学習に向かう姿勢はよい傾向にあります。また、理科においては、「理科の授業の内容はわかりますか。」という質問についての肯定的回答は全国とほぼ同じです。

**【課題が残った項目】**

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、**読書**をしますか。



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか。(塾やインターネットを活用した時間を含む)



**課題(考察)**

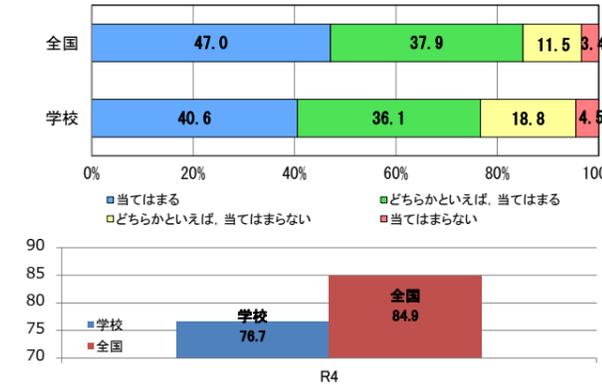
○読書時間については、令和3年度から令和4年度にかけて、少なくなっています。タブレットの活用と同時に、本に触れる機会を大切にしていきたいです。  
 ○家庭学習について、「休日の1時間以上の勉強時間」は全国平均を下回りました。休日にご家族と過ごしたり、外出をしたり、習い事など予定もたくさんあるかと思えます。一方で、学習する習慣をつけることも大切です。1枚目でお示した通り「平日の授業以外での学習時間」も全国平均を下回っていることから、学校では、子どもたちが主体的に学習に向かう取り組みを行う必要があると考えています。  
 ○理科については、観察や実験の結果から考察し、わかったことを表現する学習活動や問題解決型学習の充実が求められます。  
 ○「国語の授業の内容はよくわかる。」については、肯定的回答が93.3%に対し、「国語は好きですか。」の質問について、48.1%と低く、課題と受け止めています。算数や理科においても同様に、「授業の内容はよくわかる。」については肯定的であっても、「好きか」という質問では肯定的な回答が少なくなります。子どもたちの興味関心を引く取り組みの必要性を感じております。

**分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと**

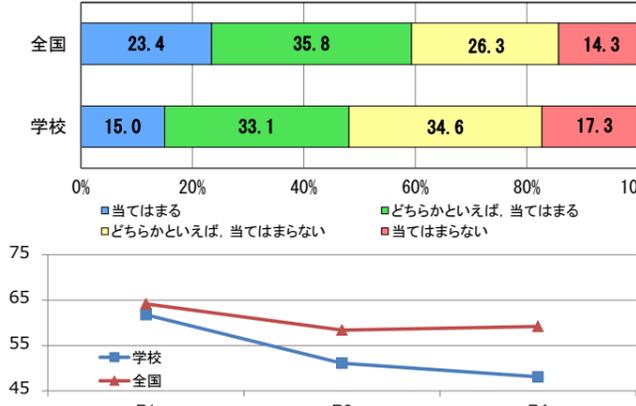
(1) 授業改善について

○課題であった国語における漢字の学習、算数における基礎・基本の徹底、理科における問題解決型学習の充実を図っていきます。  
 ○引き続き、「Hirakata スタンダード」による授業づくりと「ユニバーサルデザイン」をもとにした学習環境整備に努めていきます。  
 ○今年度の校内研究のテーマは、「自ら考え、判断し、行動する主体的に学ぶ児童の育成～学ぶ側に立った授業の実践を求めて～」です。今後も、国語科を中心に校内研修や研究授業を行っていきます。  
 ○子どもたちが主体的に学ぶことができるよう、ゴールを見据えた逆向き設計での単元指導計画の作成し、授業改善を推進していきます。  
 ○「協働的な学び」として、ペアや班での交流や話し合いを通して、自己の考えを再構築する学習を推進していきます。  
 ○相互授業参観や研究授業を実施し、指導力の向上をめざしていきます。  
 ○「読書」の時間やおはなしキューピットさんによる「絵本の読み聞かせ」を通し、子どもたちの豊かな心を育てていきます。  
 ○情報教育において、情報活用能力の向上をめざした取り組みを推進します。具体的には、授業においてタブレットを活用し情報を収集、選択、分析しながら思考力・判断力・表現力を育成することをめざします。  
 ○算数科における習熟度別少人数指導(5・6年生のみ)を充実させ、ひとりひとりの課題にそって学習の支援をしていきます。  
 ○外国語(英語)教育において、JET(英語教育指導助手)や NET(Native English Teacher)とのチームティーチングによる授業を行い、「伝えあう活動」(言語活動)を通してコミュニケーション力の向上をめざします。

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



国語の勉強は好きですか



(2) 家庭学習について

○自学自習力の育成をめざし、引き続き「自学ノート」の取り組みを行っていきます。見本となるようなノートについては、廊下に掲示し、児童の学習意欲を高めていきます。  
 ○宿題やデジタル教材を活用した家庭学習を奨励していきます。  
 ○タイピングの宿題を取り入れ、情報活用スキルの向上をめざします。  
 (お願い) 家庭学習は基礎基本の定着と自学自習力を身に付けるために、とても重要です。1学期に配付した「家庭学習の手引き」を参考に、ご家庭でも家庭学習について、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。